



栄華を極めるフランスのヴェルサイユ宮殿から北東におよそ800km、プロイセンのポツダムでは才気溢れる若き国王フリードリヒ2世が政務の傍ら、彼の宮廷楽士たちと共にほぼ毎晩のように演奏会を催していました。そのプロ並みの音楽の才能とフルートの技量を持った彼に召し抱えられたのはヨーロッパ随一の音楽家ばかりで、国王の好むフランス趣味を取り入れた彼らの作品はギャラント様式、また多感様式と呼ばれ独自の発展を遂げてゆくの。今回はそのような大王の音楽家たちの作品に、フランス・バロックのレパートリーを専門としてきたプティ・ヴィオロンが光を当てます。華麗で変化に富んだシンフォニア(交響曲の前身)を弦楽合奏で、流麗で伸びやかな旋律の協奏曲を主宰自らのヴァイオリン独奏と、現在スイス留学中である吉崎恭佳のフルート独奏でお楽しみください!

—* Programme *—

カール・ハインリヒ・グラウン：歌劇《チェーザレとクレオパトラ》序曲

Karl Heinrich Graun(1704-1759): "Cesare e Cleopatra", Overture. Graun WV B:I:7

ヨハン・ゴットリーブ・グラウン：シンフォニア ニ長調

Johann Gottlieb Graun(1703-1771): Sinfonia in D. Graun WV Cv:XII:77

ヨハン・ヨアヒム・クヴァンツ：フルート協奏曲 ホ短調

Johann Joachim Quantz(1697-1773): Concerto à 5 in e Flauto traversiero e Archi. QV5:124



ヨハン・ゴットリーブ・ヤニツチュ：シンフォニア 変ロ長調

Johann Gottlieb Janitsch(1708-1763): Sinfonia in B. ULB Mus.Ms.251

フランツ(フランティシェク)・ベンダ：ヴァイオリン協奏曲 ハ長調

Franz(František) Benda(1709-1786): Concerto in C per il Violino concertato e Archi. L2.1

カール・フィリップ・エマヌエル・バッハ：シンフォニア(交響曲) ト長調

Carl Philipp Emanuel Bach(1714-1788): Symphonie en sol majeur. Wq.173, H.648



佐藤駿太 SHUNTA SATO

1993年横浜生まれ。4歳からヴァイオリンを始め、関尚子、岩崎裕子、久保良治、篠崎史紀、堀正文の各氏に師事。ピリオド楽器と奏法を戸田薫、寺神戸亮、若松夏美の各氏に師事、指揮法を根本卓也氏に師事。桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)を経て、桐朋学園大学音楽学部ヴァイオリン専攻卒業、同時にバロック・ヴァイオリン副専攻修了。

2013年3月、自身の対外的な初リサイタルを行う。2015年3月、バロックオーボエ奏者・荒井豪氏とデュオリサイタル(鎌倉と東京の2公演)、同月、自身のソロリサイタル「テレマン：無伴奏ヴァイオリンのための12のファンタジア全曲演奏会」を公演、好評を博す。バッハ・コレギウム・ジャパン、オーケストラ・リベラ・クラシカ、古楽アンサンブル「コントラポント」など、国内古楽アンサンブル、オーケストラ団体公演の出演多数。現在、東京藝術大学バロックヴァイオリン専攻修士2年在学中。



吉崎恭佳 YASUKA YOSHIKAZI

桐朋学園大学にフルート専攻で入学した後、歴史的奏法、音楽理論に傾倒し古楽器科に転科。同大学研究科古楽器専攻卒業。現在、スイス政府奨学金給付生(Swiss Government Excellence Scholarship)としてルネサンスからロマン派の音楽を中心にパーゼル・スコラカントルム音楽院に在籍し、ソロ、アンサンブル、オーケストラの各方面で幅広く研鑽、演奏活動を行っている。これまでルネサンスから19世紀ロマン派までの各時代のフルートを有田正広氏に師事。モダンフルートを飯島和久、白尾彰の各氏に師事。バルトルド・クイケン、ヴァルター・ファン・ハウヴェの各氏のマスタークラスをはじめ日本・欧州各地のマスタークラス、音楽祭等に積極的に参加している。現在、スコラカントルムにてフラウト・トラヴェルソをマルク・アンタイ氏に、ルネサンス・コンソートをヨハンナ・バルト氏に師事。第26回国際古楽コンクール<山梨>バロック時代の旋律楽器部門で最高賞を受賞。

ACCESS

杉並公会堂 小ホール

※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

